



記者会見資料 2008年7月3日

横浜でのアフリカの声届かず、洞爺湖でアフリカ支援後退か？

5月30日に閉幕した第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)では、今後5年間で対アフリカODAを倍増することや、経済成長のための民間投資倍増計画などが確認された。日本政府は、2008年をアフリカ支援にとっての節目の年と位置づけ、TICAD IVでのリーダーシップ、また、その後開催される洞爺湖サミットにおいて、議長国としてTICAD IVでの成果をサミットにつなげることを約束していた。

しかし、6月29日発行のフィナンシャル・タイムズ紙(ヒュー・ウィリアムソン ベルリン特派員)の記事によれば、来週、洞爺湖で発表される予定のG8コミュニケのドラフトでは、G8が2005年にグレンイーグルズで交わしたアフリカ向け支援額を2010年までに250億ドル増やす、とする目標については言及していないとされている。

「TICAD IVが終わったからといって一段落したかのような感じさえ受けます。TICAD IVでの約束を、国際目標に見合った形でスケールアップしG8全体の行動につなげてこそ、TICAD IVを成功と評せるのであり、また、サミット議長国としての責任を果たすことになるのです。TICAD IV・NGO ネットワーク運営委員／ワールド・ビジョン・ジャパン谷村実能里

貧困層が抱える苦難が増大する中で、G8が新たな約束を交わすべき場面でありながら、過去の約束すら無視しようとしていることに、アフリカNGOからが憤りの声が聞こえてくる。「気候変動、原油・食料価格の高騰は、いとも簡単に貧しい人々の命を奪っていく。アフリカの人々を危機的な状況に追いやっている原因が、G8をはじめとする先進国にあることを認め、その責任を取らなければならない。追加的支援を必要とする最中、過去の約束に背を向けるということは、二重の悲劇だ」PELUMのジョセフ・ソナ、ザンビア

「洞爺湖サミットで、グレンイーグルズ公約が再確認されなければ、2005年以来始めてのことであり、約束自体を白紙に戻すことになってしまう。洞爺湖サミットが、G8の世界的な地位を決定的に傷つけた歴史的失敗として語り継がれることになるか、その岐路に議長国日本は立たされている。」2008年G8サミットNGOフォーラム 貧困開発ユニット／オックスファム・ジャパン山田太雲

サミット開催まで残されたのは数日。日本が議長国として果たしてきた努力を無にしないためにも、これまでに以上にリーダーシップが問われる。

END

本件に関するお問い合わせは、こちらまでお願いいたします：

TICAD IV・NGO ネットワーク(TNnet)(担当)谷村 美能里(ワールド・ビジョン・ジャパン)
(事務局)住所：169-0051 新宿区西早稲田 1-21-1 早大西早稲田ビル7F／電話：03-5286-8261

2008年G8サミットNGOフォーラム(担当)山田太雲
(事務局)住所：169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18 アバコ5F／電話：03-5292-29101